

長崎国際大学 同窓会誌

2016.3 VOL.11

Nagasaki International University



[発行元]長崎国際大学同窓会
〒859-3298
長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7
長崎国際大学事務局
TEL.0956(39)2020 FAX.0956(39)3111
E-mail:dousou@niu.ac.jp



「同窓生としての誇りを胸に」

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

ハウステンボスでは春の訪れを感じさせる恒例のチューリップ祭りが4月中旬まで開催され、今年は日本最多の700品種の色鮮やかなチューリップが美しく咲き誇っています。

先日、平成27年度卒業証書、修了証書、学位記授与式が挙行され、人間社会学部200名、健康管理学部79名、薬学部55名、合わせて334名が卒業証書を手にされ、同時に我々同窓会の新しい仲間となりました。卒業生の皆様の今後益々のご活躍と同窓会活動への積極的な参加を同窓生一同楽しみにしています。

さて、長崎国際大学の経営母体である学校法人九州文化学園が昨年創立70周年を迎えた「未来への地域づくりと人づくり」と題した70周年記念誌が昨年末に発行され、長崎国際大学が公私協力型の大学として、長崎県、佐世保市、地元経済界の協力の中で誕生したことから、大学開設に尽力された光武顕元佐世保市長のインタビューが記念誌に収められていました。その中で当時市議会では、光武元市長の提案した大学設立の財政支援について、「賛成意見の一方で、立地面での反対。1つの学校法人に大きなお金を出すことが不公平につながるとの反対。そもそも高等教育機関が佐世保市に必要なのか、それより福祉や不景気で苦しんでいる中小企業に財政を使うべきではなどの反対意見があり、1998(平成10)年5月の臨時議会の委員会で

は、深夜1時半まで討論が続きました」と大学開設の決め手となった佐世保市の財政支援が決定するまでのエピソードが紹介されています。

学生時代には、「公私協力型の大学」の意味も考えず、また開設に向けて奔走された方々の熱い思いにも気づくこともありませんでしたが、記念誌に目を通しますと、仲間や恩師との出会い、そして「今」があるのは開設に向けて尽力していただいた皆様や、貴重な佐世保市民の税金でありながら「佐世保の未来」への投資と受け入れてくださった市民の皆様のお陰であったことを理解し、今更ながら感謝の気持ちが自然と込み上げてきました。

同時にその期待と責任に対し、同窓生一人ひとりがそれぞれの地域社会の一員として、「いつも人から、そして心から」のモットーを胸に誠実に応え、またそれぞれの専門性を生かしながら見事に活躍されていますことは同窓生の一人として、大変誇らしく思います。

結びに、今後ますますの母校の発展と、同窓生の皆様のご健勝を祈念し、「同窓会誌VOL.11」の発行にあたってのご挨拶と致します。



長崎国際大学 悠和会
会長 橋之口裕太

「春を待つ心全ての生きものに」

白梅、紅梅の馥郁たる香りが春を待つ人々の心に答えているようです。大学は3月12日に第13回の卒業式を迎えました。341名(留学生37名、大学院生7名を含む)の卒業生が、社会に巣立っていきました。

今年は特に本学園創立70周年の年であり、11月にはアルカス佐世保で盛大に創立記念式典を開催致しました。昭和20年日本が第二次世界大戦で敗れ、日本が一番貧しく動乱の中で誕生をしました。

当時は雪、雨が教室に降りこんでくるという校舎、食べるのも着る物も不足するという劣悪な教室環境の中でそれでも学生は学ぶことの喜びを誇りに満ちあふっていました。今70年の歳月が流れ日本は奇跡的な経済成長をとげ豊かな国になりました。

現在、超高齢化社会人口減少という社会を迎えました。気になることは若い人が内向きになっているのではないかということです。外国に行くことを嫌い人との付き合いにわずらわしさを感じスマートフォンやパソコン



長崎国際大学 理事長・学長
安部 直樹

に向き合う東京に行ってJR山手線に乗りますと座っている若者のほとんどがスマートフォンに向かっているという異様な光景に出合います。

むしろ人生にとって大切なことは多くの人とふれ合い、その為に嫌いなこととも出会いますが、そうした人と人のかかわりを経験して人の奥深さを知りやがて、自分の成長に結びつけていく、どうぞ人の縁を積極的に求めていって下さい。

薬学部が来年設立10周年を迎えます。卒業生も4700名と着実に増加しています。これから先の皆さん的人生も幸いこと悲しいこともあると思いますがそれをこえた夢と希望があり、何よりも素晴らしい未来があります。是非何かの折に大学を訪ね事務局、先生方を訪ねてください皆さん方の幸福とご健康をいつも祈っています。

また、国際観光学科の4年生永峰沙織さんがリオデジャネイロオリンピックにアーチェリー選手として出場することが決定しました。少子化、地方の過疎化が進むなかで地方の私立大学が学生募集で苦戦している件で、本学は昨年を上回る学生志願者が来てくれました。野球場を創り、そのことも学生募集につながったのではないかとも考えています。

来年(平成28年度)からは大学野球の活躍もお届けすることができるのではないでしょうか。

雨もよし、晴れればまたよし

風はまだ寒さを感じさせるものの、山里や街のそこかしこにさまざまな花が咲き匂う季節となりました。悠和会の皆さんには、健やかにお過ごしのことと思います。

この春、本学からは学部で334名の卒業生、大学院で7名の修了生を送り出すことができました。合わせて341名の若者たちが本学における学びの成果を糧に、社会の荒波の中に飛び立って行った訳ですが、私ども教職員一同の願いは唯一つ、すべての若者たちの将来が幸多きものとなるようにということです。悠和会の皆さんには、大学の先輩として、また人生の先達として、本学を巣立って行った後輩たちを温かく励ましてくださいますようお願ひいたします。

さて、本学の母体である学校法人九州文化学園は昨年、創立70周年を迎え、11月7日に記念式典が賑々しく挙行されました。大学としては今年で開学16年目の春を



長崎国際大学
人間社会学部長
木村 勝彦

迎え、学園全体の歴史の中ではまだ若いものの、大学としての成熟期を迎えつつあります。この4月には開学以来最多となる新入学生を受入れる予定ですし、教育・研究の充実、多様な部・サークルの活躍など、今や長崎国際大学の名は九州の私学として冠たるものになりつつあります。

とは言え、本学のこうした着実な発展は、決して勞せずして他から与えられたものではなく、文字通り、学生と教職員との「協働」によって実現されたものにほかならないのです。本学の歴史は決して平坦なものではなく、苦闘の連續でしたが、今やその努力が実りつつあると言つてよいでしょう。そして、本学の発展における同窓会「悠和会」の存在は大きなものがありました。

「雨奇晴好」という言葉があります。「雨もよし、晴ればそれもまたよし」という意味で、中国の詩人・蘇東坡の詩の一節に由来します。人生もまた決して平坦な歩みではなく、晴れやかで温かな日もあれば、風雨にさらされ身も心も凍ついてしまうような日もあるでしょう。しかし、すべてを含めて人生そのものを大きく肯定し、楽しみながら、発展を遂げていただきたいと思います。

悠和会の皆さんのご健康と益々のご活躍を心より祈っております。

平成27年度 クラブ・サークル表彰について

平成27年度全国大会出場クラブ・サークル【8団体】

- 男女ソフトテニス部
- 女子テニス部
- 空手部
- ゴルフ部
- アーチェリー部
- 女子バレーボール部

平成27年度 クラブ・サークルバックアップについて

平成27年度バックアップ申請団体【7団体】

- 男子テニス部
- 女子バドミントン部
- 男子バドミントン部
- よさこいサークル
- 男子バレーボール部
- 男子ソフトボール部
- エイサーリークル
- 茶道部
- ダンスサークル
- 吹奏楽部



結婚10周年で結婚式を挙げました

旦那さんとは同じ学部の同級生として知り合いました。

真逆に近い性格の二人だったので、同級生や先生方にも驚かれましたが、学生結婚したことであちらに驚かれました。

旦那さんは栄養科を卒業し、今は栄養士として平戸にある特養「あんのん」に勤めています。私は出産を機に観光科へ転科しましたが、学んだ外食産業論やアルバイトで培った接客のスキルを生かしたいと思い、卒業後は市内の飲食店に就職し、ホールスタッフとして店舗の運営や立ち上げ業務に従事しました。

3人の子どもに恵まれた現在は、「洋服の青山佐世保駅前店」に販売スタッフとして勤めています。

分野は違えど、同じ接客業なのでやりがいもありますし、子育てへの理解を示してくれる職場なので、とても働きやすいです(^^)

国際大の生徒さんもよく来店されるので、その時は学校の話で盛り上がりますよ♪

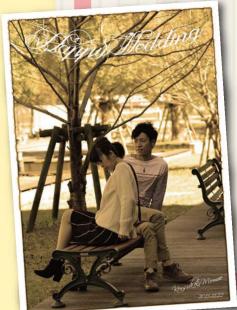
今回、結婚10周年という節目に結婚式を挙げることになり、二人の思い出を象徴する場所は国際大しかないと思い、式場で使用する写真を学内で撮影させていただきました。

教室や学食のテラス、図書室の階段前での撮影は学生時代の思い出がよみがえりとても懐かしく、素敵な写真が仕上りました！

お陰さまで結婚式当日もたくさんの参列者にお褒めの言葉をいただき、大学時代の友人達にも喜んでもらえました♪ 私たち夫婦の出会いの場所で、子ども達と一緒に新たな思い出作りが出来て本当に良かったです♪

卒業して10年経つのにいつも温かく迎えてくれる先生方や職員のみなさん、ご協力ありがとうございました！！

国際観光学科卒業生 黒田百恵



受賞クラブからのコメント

男女ソフトテニス部

この度は、このような賞をいただきありがとうございます。私たち男女ソフトテニス部は、成績を収める数が徐々に増えています。現在、人数は少ないですが、どこにも負けないチームワークと、九州学生リーグ2部から1部昇格、全国大会への出場という目標を持ち日々の練習に励んでいます。ここ数年では全国大会に出場することができます。今後も全国大会に出場し一勝でも多く勝てるよう部員一人一人が向上心を持ち、練習に取り組み、そして部活動を通じ文武両道をはじめ、社会の礼儀や人間的成长、知識を身につけると共に、私たちを日々支えてくださるたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、部員全員で来年度も好成績を残せるよう頑張りますので応援よろしくお願ひします。

ゴルフ部

この度は、同窓会の皆様方からゴルフ部の活動が表彰されたことを、部員一同大変喜んでいます。今年のゴルフ部の成績は九州大会個人戦で1大会優勝、九州大会団体戦では秋季団体戦で二連覇を果たしました。創部以来、大学関係者の方々をはじめ、地域の方々にもご協力していただいたことによって、このような成績が残せたと思っています。

今後はこの表彰を心の支えとして、また心の糧として、表彰の栄誉に恥じぬよう、さらに活躍の場を広げたいと考えています。

同窓会の皆さん、今回はこのような表彰をいただきありがとうございます。精一杯練習に励みますので精進していきますので、今後ともどうぞ応援よろしくお願ひ致します。

女子テニス部

この度、同窓会並びに卒業生の皆さんから「クラブ団体表彰」をいただき、部員一同感謝申し上げます。

私たち女子テニス部の平成27年度の戦績として、団体戦では九州インカレ準優勝、九州地区1部リーグ4位、個人戦ではインカレ出場、九州学生ランキング(H27)シングルス2位・6位、さらに社会貢献活動として4年間「宮城県東日本大震災みやぎ子ども育英基金」への募金を行いました。

新年度については、個人戦は九州学生選手権(夏季・春季)優勝及びインカレ出場、団体戦では9月開催の九州地区1部リーグ優勝、そして11月開催の全国王座テニス決定試合(10校出場)への出場を最大の目標とします。

最後になりますが、支援金については有難く部活動にて有意義に使わせていただきます。今後も私たち女子テニス部は本学の為、また卒業生の皆さまの為にも頑張りますので、どうぞ今後ともご声援及びご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

アーチェリー部

この度は同窓会から表彰を頂き、アーチェリー部員一同より感謝申し上げます。

私たちアーチェリー部は、日頃から練習を重ね、全日本学生王座では、男子4位、女子準優勝というところまで登りつめることができました。この成績は、部員の努力はもちろんですが、キム監督のご指導や学校、同窓会、そして家族などの様々な人の支えによって達成できたことだと思っております。

今年からはさらに部員が増え、50名を超える団体として活動しています。皆で切磋琢磨し、全日本学生王座優勝という最大の目標に向かって、日々精進してまいります。

今回はこのように支援をして頂き大変感謝しております。今後ともアーチェリー部をよろしくお願ひします。

空手部

私たち長崎国際大学空手道部は、週3回90分の練習の中で「楽しく全力」をテーマに日々練習に励んでいます。練習では、先輩後輩関係なく意見を言い合い、試合で勝つために自分たちで練習メニューを考えるのが特徴の一つであり、オンとオフのメリハリをしっかりとつけることができるチームです。

昨年は全九州団体アベック優勝を目指してきましたが、惜しくも果たすことができませんでした。今村先生、田井監督を始めとする指導者の方々とチーム一丸となって、支援会や保護者の皆様などいろいろな方に支えられ自分たちが空手をできるということに感謝の気持ちを持ち、今年こそは全九州団体アベック優勝を果たせるように1年間精進していきたいと思います。

今年はまた新しい仲間も加わり、ますます大きなチームになりますが、そのチームをしっかりとまとめていき、応援してくださる方々に恩返しができるように頑張っていきますので、応援のほどよろしくお願ひいたします。

女子バレー部

本日は、このような賞をいただき、ありがとうございます。

日ごろから、安部理事長様をはじめ、同窓会、学校関係者の皆様にはご支援、ご声援をいただき、部員一同感謝いたします。

昨年度は、西日本大会、全国大会には出場するものの、思うような結果が残せませんでした。

今年こそ、今まで以上の成績を残せるよう、日々精進してまいります。

又、学校生活、学校行事にも積極的に参加していきたいと思います。

今後とも、温かいご声援のほど宜しくお願ひします。

近況報告

- 平成28年2月27日・28日薬剤師国家試験
- 平成28年3月12日卒業式・卒業記念パーティー
- 平成28年3月19日オープンキャンパス
- 平成28年3月20日管理栄養士国家試験
- 平成27年4月2日入学式

退職者ごあいさつ

国際観光学科 安徳 勝憲(教授)

11年前、初めて本学に足を踏み入れた私は、わずか3時間ほどで長年勤めた全日空ホテルズから本学に転職する決断をしていました。その理由は、学生が机の上の消しゴムのカスを手に握って教室を出て行く姿を目にしたのと、安部理事長があの大きな声で気軽に学生たちに声をかけ、学生たちも明るい笑顔で挨拶を返していたことでした。この3月で定年退職しますが、今でもあの時の決断を、“Good Job”と褒めてやりたい気持ちでいっぱいです。



健康栄養学科 小島 菜実絵(助教)

健康管理学部の卒業生へ「近い将来に訪れるであろう節目において、十分に力が発揮できるよう日頃を精一杯であって欲しい。」という内容の言葉を贈りました。これは、自分自身への戒めの言葉でもありました。長崎国際大学で過ごした10年間は、素直な学生さんと見識の広い先生方のもとで多くの経験を積ませていただきとても充実したものでした。新天地ではこの経験を生かして精進して参りたいと思います。ありがとうございました



薬学科 森永 紀(准教授)

薬学部開設2年目から赴任し、この9年間大変お世話になりました。私にとって佐世保は第2の故郷となりました。教員としては、生薬学、天然物化学、薬用植物学の講義、学生実習、卒業研究を通して、私自身も多くのこと学び、皆さんと共に成長することができたと思います。長崎国際大学で過ごせた9年間はとても幸せな時間でした。長崎国際大学のさらなる発展、卒業生の皆さんのご活躍、ご多幸を心から願っております。



国際観光学科
田渕 幸親(教授)



社会福祉学科
古賀 義(教授)



健康栄養学科
山本 孝史(教授)



健康栄養学科
宮本 恵美(准教授)

卒業式・卒業 パーティの様子

